

武家嚴制錄

七

田
73
6534
7



4883



武藏國志卷二十二

- 一 辻番不詳書
- 一 三ノ子江戶編
- 一 大車考揚之定
- 一 百姓町人沙解
- 一 西年月河邊沙解
- 一 國巡見物江戶沙解
- 一 上五元江戶知系
- 一 國巡見物江戶沙解
- 一 廻國之元江戶知系

寛永二年二月月

同四年十月廿六

同五年十二月十四

同六年七月日

同七年十月廿

同七年十二月廿

同日



一 辻番下男女事出く宿と信今く千惣番番
しあゆ人々集むる事衣類法存大信小
てり一切の事

附辻番下先重物と亦是若敷物高重化
しる事

右番しつおきく居遠有る事祇在る事
しる事

寛文十年二月日

七条河

一 せう志んく廣沙福
せん

一 那羅宗の能為河制禁密く以て族有る事

夫今以流もきの糸向後く穿鑿は人々
定者くは油の取中并内改く小書成との
今も流もき付若母とまるとん定も而も在
後名も文組く好も各母の宗も言礼も書の流
今も流もき付若母とまるとん定も而も在
せんとのと存もきく中も流もき付若母とまるとん定も而も在
せんとのと存もきく中も流もき付若母とまるとん定も而も在

一 せう志んく廣沙福
せん

附那羅宗の能為河制禁密く以て族有る事

御座候事

寛文四年十一月廿九日

一 火事場考場之定

是

一 寺小性住持信者

梅田大梅子

一 寺書院番住持者

大寺左梅子

一 新番番住持者

寺尾細下住持者

伊腰持住持者

一 小十人住持者

寺尾細下

一 寺行元住持者

大寺

一 寺行住持者

寺尾細下

右 寺城下右火事場番住持者

寺下子系一省之寺住持者

在寺白取寺住持者

寺住持者

寺住持者

寛文四年十二月十日

一 町人百姓

是

一 寺住持者

寺住持者

一 町人百姓

町奉行郡奉行下り奉り内添放申度終
維為以運上為誠度又取決之而及延計
双方之難多志月成と云つ所之事
一百姓町人遠征之類ハ好生之内也故町奉行
内所賣十材路等中少之件ハ子細に
及淨海ハ了為曲事也

右之沙瀬方面之志度下渡言依似概事
件

寛文六年七月日 何来

何来

何来

一 純正年酒造り

元

一 今年酒造元之地在方操小半費之
酒造之業は戸系之板垣津名酒之而
於法國在之而、累年造亦、各数之市
酒代友より改之申方つ之也、
却、酒造一切之件止、若、遠方之給人氏
友誠度之、万、密、造、事、何、
泊人、出、一、
存、
行、
實、
一、

一 同巡見物 何月何日

是

一 今度法蘭西巡見總て行有之國法京城法京有
事

一 人馬取致改每々

一 御東御之由人馬は定て毎結御法京之人馬
每降て由事

一 何方と見方は其傳と花柳多法一切之為有
但幸月一者合而之其取て在事

一 法之令不地事出可有毎月并常尾新祝也
不致事

一 只由一箇之法之て法之来之是以之市之由陽之
愛之之由愛之の老之其市之去應之愛之市之

右条一箇之法之て法之来之是以之市之由陽之

寛文七年二月廿日

一 只由一箇之法之て法之来之是以之市之由陽之

是

一 御神和服之に所在之市は由之若悪之取
事

一 昔々之人定て江由老之御法一切之由御法
由法由之市之由の由之御法一切之由御法
御事

一 何より今之七年運上之由之市は由之若悪之取
て迷惑は御法一切之由御法御事

於爾と立之様式有見之事
一 以成河仕舞と習う之事有見之事
一 浦と隣とにわたり強弱相争ふ事の有見之事
不之仕善徳女一切抱て去る事有見之事
未之望し身を欺つて去る事

一 秤と清濁
一 号月

山城 大和 河内 和泉 播磨
山陽道八ヶ玉
隠岐 因幡 後卷 出雲 石見

山陽道八ヶ玉
播磨 美作 備前 備中 備後
安藝 因幡 長門
紀伊 淡路 河内 讃岐 伊豫
土佐
西海道九ヶ玉
筑前 筑後 肥前 肥後 豊前
豊後 日向 大隅
出羽 越後 對馬
都立三孫と立之様式有見之事
右之字五ヶ玉と立之様式有見之事

作甘半弥抄書之(長)之邊有恙於別人稱
用之述了多処嚴科老之

寛文八年戊申十月廿六

内宿正
但馬守
大和守
美濃守
若後守
權樂氏

一因

光

東海道十五玉

伊賀 津勢 志摩 尾張 三河
遠江 踏河 甲斐 伊豆 下河 常陸
武藏 安房 上総

东山道八玉

色江 美濃 飛騨 信濃 上野
下野 深妻 出羽
小湊道七玉

若狭 越前 加賀 能登 越中
越後 佐渡

山陰道八玉 角之玉

丹波 丹後 但馬

右合三十三石

右三十三石圓一用也此石三石秤之方在明曆元年
年也 任出常法其趣也而之遺消若別令
秤用之也其在連下之知岩科也

寛文八年十月廿二日

一 緋屋藍瓶汲之沙碓

定

此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸
此石亦換任夏上此石安房上總下總常陸

宛但江戸町中兵下總中内依合取不之能分
同得取上屋本要為之不在於右之玉之藍瓶板
本在右馬一之是通江戸全通三里之内、毎年十
月中沒多月本在馬一之波指本一何網本於
此信之族名本在連在奉行不之法也也也

寛文八年 戊申 十月廿二日

一 同所

定

江戸中兵下總中内依合領緋屋藍瓶汲事
陸裁于天正廿年二月終、緋屋取上屋本在馬
頂戴之 津市仰之能合于同取上屋本在馬干
屋瓶之在右 本在馬一之波指本一何網本於

寛文十一年二月日

武家蔵制録卷之三

同録

雜之部

御中御条目

丑三月日

相沢

武沢

上総

下総

安房

常陸

上野

下野

早斐

鎗炮改御給免

辰七月日

酒造御給免

亥六月日

在森任宅、由家法令御給

延宝三年有旨

酒造之他御給

卯八月日

酒造御給

亥五月日

一 旦玉之丸御中知状 同日

安房 上総 中総 常陸

武藏 相模 上野 中野

一 國巡見物云 信守御前知状 辰八月七日

一 得勢之御上使御前知状 延宝六年六月日

一 江戸越見見方之文書 己二月十日

一 振舞膳御前知状 午八月廿九日

一 酒たき之御前知状 未三月廿日

一 嫁娶御前知状 未四月日

一 新祝之家屋御前知状 七月廿二日

一 酒之之御前知状 申二月日

一 高貴御前知状 申二月日

武家嚴制録卷二十三

雜部

一 御中御前知状

光

一 以日在る御前知状にて夜盗入らる御前知状より書
と送り書之をとりし主不審御前知状申す相
通ひ之改御前知状

一 何方にも夜盗入らる御前知状より御前知状より
出合之捕之自給ふ本合志若守警之之可る御
前知状

附書之文并山林ホ子不審御前知状之御前知状
也之御前知状

一 用事有之いふ病入化不_レ幸_レ昔各_レ又_レ記_レ上
 おり兵_レ載_レ一_レ昔_レ届_レ言_レお_レ載_レ兵_レ申_レ不_レ有_レ
 老_レ後_レ日_レ七_レの_レ二_レ為_レ曲_レ事_レ支

一 あり_レり_レ也_レお_レ定_レ行_レ未_レ志_レれ_レす_レ化_レ不_レり_レ来_レ去_レ
 沈_レ人_レ形_レく_レて_レふ_レる_レ金_レ但_レ付_レ還_レ旅_レ人_レ一_レ疾_レの_レ者_レ
 一 所_レ法_レ度_レの_レく_レく_レ山_レ申_レの_レ卯_レ常_レく_レ鉄_レ炮_レ不_レ持_レ来_レ而_レ向
 後_レ不_レ持_レ不_レ仁_レ振_レ中_レ付_レ一_レ自_レ然_レ然_レ一_レ金_レ持_レ去_レ
 在_レく_レ志_レ預_レ人_レも_レお_レか_レ一_レ急_レ度_レ申_レ履_レ受_レ言_レ中_レ
 一 年

右_レ条_レく_レる_レ市_レ地_レ以_レ代_レ支_レ急_レ交_レ中_レ付_レの_レ也
 七_レ之_レ月

一 相_レ撲_レ 武_レ茂_レ 上_レ総_レ 中_レ総_レ 安_レ房
 常_レ陸_レ 上_レ野_レ 中_レ野_レ 甲_レ斐_レ
 一 鉄_レ炮_レ改_レ所_レ船_レ是

一 關_レ東_レ申_レ鉄_レ炮_レ改_レ仕_レ棟_レ口_レ上_レ之_レ是

一 浪_レ人_レ面_レ姓_レ志_レ勿_レ海_レ他_レ然_レ志_レも_レて_レあ_レ申_レを_レ常_レも_レ在_レ
 軍_レ兵_レ面_レ鉄_レ炮_レ之_レ由_レ中_レ付_レも_レ其_レ材_レ切_レ之_レ鉄_レ炮_レ可_レ也
 上_レ之_レ也

一 以_レく_レ初_レ行_レを_レも_レ其_レ門_レ也_レ在_レ浪_レ人_レ之_レ鉄_レ炮_レの_レ振_レ子_レお
 尋_レ之_レ志_レ支_レ配_レ方_レ中_レ付_レ之_レ但_レ是_レ事_レ

辰七月

一 酒造御筋元

元

一 徳國在り不き神社に由りて中興も酒一切元
一 寺の元也りも先無用とて一若密に元之
一 軍ありて預人に出りて急度取放りて元也り
勿論其元人能て元也りて元也りて元也り
元也りて元也りて元也りて元也り

亥六月

一 在家住元出家法入り御筋

元

一 江戸町中興元也りて元也りて元也り

在りて西に中興元也りて元也りて元也り
出家法入りて元也りて元也りて元也り
当地に中興元也りて元也りて元也り
元也りて元也りて元也りて元也り
元也りて元也りて元也りて元也り
元也りて元也りて元也りて元也り

延宝二年六月

一 酒造元御筋元

元

一 徳國中興元也りて元也りて元也り
元也りて元也りて元也りて元也り

負救通造之勿論也他の事もさういふ
 之邊尚多く造之幸河の彼令後早落取
 たりといふ事も之は罷料の事所ふ也一毛を出磨
 夫之より於者遠犯之族之共不可名之文人能
 造之は行曲事但来二月より右の酒高賣之は
 其心常之可責也其の事もさういふ審
 一 毎に二回細申不之化之る度之は 造之る年
 内より望之る事
 一 所科私儀に在之神社に我所科所不之るの
 外よりしる事も其宗之も復人科代友の先宗
 之る事も相筋事也

卯八月日

一 國巡見付所筋

先達之所筋

- 一 今度安楽八兵衛見之 修月之り 國巡見付筋
- 一 馬無用之り
- 一 人馬家教政之り
- 一 御衆仰之り 今之所定之通 御衆仰之り 人馬
 之滞之り之事
- 一 何方と見之 此の事付之 飛御音信 一円之る事
 但業内之り 之の出入之り 之の事付之 有之り 之の事
- 一 附掃除之る 之の事 有来 區橋 行行 之り 之の事
 不之る事也
- 一 泊之富之 他之事 之の事 有来 區橋 行行 之り 之の事

万浦事

一 國造之面、泊りては、事平之長、陰味増す事、
 右場と云ふ事、其の事、貴女、事、事、事、事、
 事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
 事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 尋ふこ、此之、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
 使、此、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
 細、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

右條、此之、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

亥月日

一 廻國之先、即、知、此

廻國之先、即、知、此

一 見、方、之、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 所、科、私、所、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 切、死、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 何、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 公、侯、卿、任、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 賞、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 重、銀、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 公、義、所、任、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

一 須、前、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
 事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

建之ヲ然言向後之建重之云々
見社古ク柳河又事改之云々
心云

三月

安房

上総

下総

常陸

武蔵

相模

上野

下野

大久保基石門
松平近守

神尾道徳門
前田下守
会橋長左衛門
松平与三衛

一 國巡見物 行舟所福州

是

一 今度安東申國也 行舟所 往還不自申に

無し 概し 送稿 申付之 耕作 收納 所方也

掃除 未之 申付之 事

一 音信 拍一切 仕方 御事

一 國也 之 面々 泊々 之 事 并 大 尺 其 不 巧 場

喜々 概し 申付之 事

附 高 喜 者 之 申 付 之 事

一 御 朱 印 之 申 付 之 事 御 宣 通 結 算 之 事 之 令

可 出 之 事 云

辰 八 月 七 日

一 得替之節 上使所中知状

系

一 今度南隊均替身百石之人一疋之切之旨
に相違ひ

一 明年貢米迄に再換り

一 喧嘩口論に停止し事無遠宵に族阿の双方
に得代之万一為難に其旨申入る事

一 家中に事或具は迄道具を所へ心より守り
事

一 家僕に事北譜代に後て為相替なり

一 行本一切ふて代採り

一 借物ハ禮文次第たるへ

附之に押突狼藉

一 種借に義蔵が出之借付を能く為秋了
返すなり

一 未定方に五つ小男女義主後相替等小
すへに但共々年迄に譜代へ

右条に堅口 作也也若遠宵に族有る
に事知者科との

延宝六年五月日

一 江戸惣目見分是書

惣目見分道筋之是

一 美濃守宅上河邊寄合支下好寄屋橋の通町に
出か

一 芝村邊より福久保邊麻布辺に出る

一 赤坂邊の外

一 紀伊邊赤坂倉邊古橋飯邊中付ひ其より

一 口右 市若 牛込 小石川橋

一 水乃橋 飯邊中付ひ

一 筋邊橋 因不海橋屋より本戸中付ひ其より
橋通詰止

此外は橋二ヶ所より月泉橋法切次の河に橋
邊中付ひ

一 浅草橋

一 西國橋 飯邊中付ひ

一 右之橋より西國橋助見分
新橋邊 上原邊
八幡橋邊 小濱左邊

一 石川又口那小之方飯邊中付ひ
向井三原 坂井八之集
小芝原邊

右之より西國橋中付ひ其より其より

一 本橋町伴作平前見分より其より

一 紀伊邊赤坂倉邊より筋邊橋より八飯邊中付ひ

其より其より

一 河より橋より舟より八町より九町より其より
飯邊中付料より其より

右之より月申邊より其より其より

己三月十一日

一 振舞部 尚定

振舞部 先

一 御書 幸物 候に 付 於 中 招 待 名 格 候 由 候
後 見 名 書 登 之 通 名 候 若 二 許 十 葉 招 待 名 格 候 由 候
有 共 二 種 候 由 候 後 候 一 色 葉 子 掛 下 之 由 候 由 候
但 内 之 由 候 比 披 之 丸 丸 之 中 招 待 名 格 候 由 候
と 申 候 振 舞 十 七 葉 格 候 下 申 但 向 後 之 葉
と 申

一 瑞 為 國 村 大 名 府 招 舞 八 二 付 七 葉 招 舞 名
骨 二 種 後 候 一 色 葉 子 掛 下 之 由 候 由 候 由 候
葉 八 候 合 為 り 之 由 爲 御 給 付 候 由 候 申 下 申
以 振 舞 十 七 葉 格 候 由 候 申 下 申 二 爲 候 由 候



招 舞 名 書 事

一 江 中 振 舞 大 名 招 舞 八 二 付 七 葉 招 舞 名
格 候 由 候 申 下 申

以上

午 分 共 九 日

一 酒 多 之 由 御 給 付

先

一 法 國 不 下 申 之 由 送 寄 去 年 十 月 七 日 申 候
送 寄 之 由 候 由 候 送 寄 之 由 候 申 下 申

一 而 之 由 候 由 候 招 舞 十 七 葉 格 候 由 候 申 下 申
候 申 下 申 申 下 申 申 下 申 申 下 申

一 多と二化之儀、殺費するの事、自之の後、由田
細子化す中、此山と云ふ事、他より、其の事
下と考ふる事あり

未三月也

一 嫁娶并平日、從者御定、見

見

一 嫁娶、付、書法、名、おとせり、玉持、右、名、たりと
し、も、十、是、中、下、為、毎、事、事

一 同、借、この、持、法、中、中、と、為、事、事

一 同、時、過、也、事、侍、二、三人、是、情、お、穴、細、花、言
居、事、事

一 同、時、幕、長、持、り、し、一、為、全、用、抄、打、名、過、因、
而、子、三、三、張、注、二、居、事、事
一 法、右、名、江、戸、中、借、この、事、事、是、足、定、同、注、事、
或、い、お、中、七、中、より、多、く、一、為、全、用、の、先、事、事、内
何、後、身、身、退、儀、付、事、事

心

未四月

一 新、纏、く、事、事、無、借、定、く、事、事

見

一 從、け、の、事、事、以、知、り、事、事、以、他、事、事、と、所、事、事、事、事、
為、創、事、事、事、事、事、以、御、掛、儀、事、事、改、く、事、事、事、
子、事、事、と、作、事、事、行、在、事、事、一、為、事、事、事、事、事

一 奉公人面敷ノ内商賣人ノ信ニ由テ海陸停止ノ一
信ヲ奉行有ク志見又ニ為曲事ト云

一 自今以後所科租税ノ旨姓并寺社中ノ地ノ信
事ト云々セリ云種存云々為曲事ト云

附 而子ノ事ト云上ノ旨更事

十月廿二日

一 酒多系新化沙稿

云々

一 於德國在ノ市河造ノ儀ニ為子年ノ寸方由
云年亦稿ノ事尚年又云年ノ寸方ノ造
旨其市ノ信更事行人河代宿ノ望中付共

減中ノ名數書信ノ河勅迄而止ニ云云更事

一 酒内ノ寺社ノ儀 河津町而云々更事

一 以テ河造更數信又云河代宿ノ信更事
書出更事

一 号之ニ在田畑ノ他更無為ノ河停止ノ旨又
急度ニ更事

申二月日

一 商賣物并律河津條ノ信

云々

一 其不更ノ旨更事ト云云更事
商賣物ト云云信更事ト云云更事

一 更事

一 徳公儀所望の所を仰いしより、至る所を仰存
 而して、近年の若くは、多き自叙とを、亦て、後人
 以て、友より、入意致す、至る所、つら、也、事、勿、偏
 新、親、の、酒、色、一切、を、停止、若、お、政、達、肯、ハ、給人
 以、代、官、致、度、あり、し、万、一、密、に、多、く、依、り、小、事
 阿、と、酒、人、子、出、し、し、事、弊、の、と、と、事、中、より、世、磨
 英、の、言、下、在、り、て、急、度、を、事、と、是、又、あ、る、と、家
 被、り、言、信、其、飲、酒、色、と、は、花、科、事、也、
 一 耕作、換、毛、の、布、の、百姓、可、困、窮、と、る、不、幸、事、也、
 入、意、仕、至、り、有、り、事、也、
 一 従、先、年、如、く、信、出、對、古、民、之、成、此、民、若、亦、他、也、
 不、亦、亦、毛、中、採、年、者、之、細、信、之、其、所、曲、事、也、

一 在、り、而、し、改、め、信、會、場、年、内、より、く、と、云、く、事、
 と、ま、く、(き、事、
 一 麻、植、お、も、事、中、了、勿、偏、在、米、不、亦、好、以、之、通、く、事、
 き、事、

右、案、に、急、度、で、事、付、年、
 万、治、三、年、八、月、廿、二、日

武家嚴制詠 卷二十口

雜一節

- 一 町中事、御觸、免
- 一 坊上事、御觸、奉、係、元、從、若、以、觸、平、九、月
- 一 同、系、活、元、刻、限、御觸、日、月、日
- 一 過、番、不、登、書、二、月、日
- 一 物、函、事、登、書、戌、寅、月、七、日
- 一 酒、多、く、之、御觸、戌、九、月、日

武家歳制源 卷二十に

雑部

一 町中年の御觸し見

町中年の中觸し見

一人 法子言者 恒成人を并下 信人おと撰し形と云

法子言者 恒成人と云 信人おと撰し形と云

有るゆゑに 為曲事又

一行 弟少知もの又云 名居人りとも 信人高市行也

宝車公よ 出さるもの有る言 大屋敷を切し 小野原

左衛門 右の抱御り 子と 高市上 百連と云 小野原

お振より おや 右に 大屋敷 高市上 為曲事又

信人中 付極の事

一 町中年の御觸し見

一 町中年の中觸し見

一 町中年の御觸し見

一 町中年の中觸し見

一 町中年の御觸し見

一 町中年の中觸し見

一 町中年の御觸し見

一 町中年の中觸し見

九月廿日

九月廿日

九月廿日

九月廿日

九月廿日

九月廿日

九月廿日

九月廿日

一 名落人六七下り多し有るは法人と云ふ是中
十月三日坊明老ハ二十四日方遊程に
在るは百捕りしは折花子中坊の白備
科と老とハ方及逃放と注釈事

一同に在る所下りしは法人の目切
中付名落老と尋るを不出しは去るは
封付と云ふは改めと尋出さる名落
多しと云ふは成放りたる法人と云ふ
尋出さる事と尋出さる法人と云ふ
根子と云ふは純志と云ふは

一 中給方の法人は尋るをりし方切
吉金子と云ふは雑物と代るは坊
是と云ふは

是と云ふは
是と云ふは

一 坊寺能沙法事、系法元從者宮好、中給

是

一 七度坊坊寺中法事申し法元會、町口英嘉
門より内運借りの因持大谷、
五人持名弟歴六六三人、
之時名義名年持下、
此事

一 山門の内、
而後、

一 乃者事

一 百連儀従軍ある寺色とて丁も降之ふ所礼給
候へり付一ふ所候へり

心と

九月

一 同系備別限御給

光

一 初夜若晨朝の系備と奉一切之乃停止

一 朝六ツ時より夜を渡り過て候迄は女人等
通へり男は一切停止

一 朝六ツ時より門とて候迄は夜とて付同とて同

一 御城女中より系備と奉候所御裏口にて御安

相給候人亦御裏口より系備一切之用

一 御堂元寮より方よりハ御後給人亦出入不為
停止

心と

九月

一 辻番不登書

条と

一 辻番より系備と奉候迄勤之候御中番不登
と御堂元寮より書とてハ御堂元寮の不切
見出より狼藉とて或ハ御堂元寮より御堂
元寮の御堂元寮とて御堂元寮より御堂元寮

渡之令念知村の町奉行不旨に申渡事

一 奉行人員月夜宿早の面々申渡事
申渡事

附雜説先之申渡り

一 辻番不に男女当此の宿も借りし事ある番不
に番下人と集り至りし事并宿に宿返是何
しても一切申渡りし事

附辻番不にて合由を不見若事相商番下
りし事

右条々下おろし申渡者、申渡有之に申
覽上は此の怪事之度て申渡りし事

寛文十年三月 奉行

一 輪島年清御案

差

一 去年去年と海邊に申渡事にて申渡りし事
左記御當年申渡事御海邊洪水舟を翻他輪島
之地有之七年も様上申渡りし事
左記江戸京師南良太坂坂并各海に申渡り
在りし事御當年申渡事申渡りし事
之給人の代及りし事改之申渡りし事
向備新組に海邊一切を停止之若事申渡り
給人申渡りし事
申渡りし事
申渡りし事
の事下者にて是度て申渡りし事

一 伊豆の彼海産の魚行飛科事

一 耕他拉毛の布の百此可園新の事

一 今多仕金に中事

一 後光年也の仕出對古氏に成兆美又他毛

一 換元の中採事賣の強派名に行曲事受

一 在る不の流為多場年月の事

一 庶務の事

一 右条の事

百治三年八月廿二

一 酒の事

光

一 法國在るもの事

一 後去年の通の遠の事

一 附の事

一 多の事

一 御科私の事

一 御事

一 其の事

一 其の事

武家藏制録卷三十一

同録

一 雜部

一 寺社方御書御札多之沙弱 子六月日 貞享元

一 御書御札多之沙弱 子三月十日

一 奥多御札多之沙弱 卯二月廿四日

一 在利支丹之沙弱 卯六月日

一 同改之沙弱

一 火車舟沙弱 亥二月日

一 同所 十月廿八日

一 町中沙弱 亥二月日

一 遠近秋葉舟沙弱 貞享三年十月日

一町人衣類ノ汚濁
 一町旦元汚濁知来々
 一矢丸ノ汚濁
 一円形
 一馬ノ蹄走止汚濁
 一捨子并生汚濁
 一生汚濁
 一捨馬ノ汚濁
 一鳥ノ糞ノ汚濁
 一生汚濁
 一川取汚濁
 一谷中汚濁

辰二月六日
 元禄二年三月廿
 卯二月
 同月廿
 九月十日
 貞享四年四月
 同月
 十二月
 三月廿
 元禄二
 貞享二年十月日
 同三月廿日
 同月

一犬和川内砂漏見分書上
 一林森下住金首汚濁元
 子八月十日

武家叢刊録卷二十六

雜部

一 御朱印 常々時御符

光

一 寺百石以上之寺領地 御朱印は寺符と云ふ屋相違
布多 法語と申す 任符事

一 御代々 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者
其人 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者

御村言 過帳面々 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者
御村領地 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者

一 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者
御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 御朱印 取持之面々 係者

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

書江ノ友人迄ノ事

右ノ如クニ事行ハテ取ル事
子二月廿二

一 寺社方 浄土宗 物部 浄土

光

一 浄土代 浄土宗 不持ノ社 浄土 浄土 浄土 浄土

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

相模守 中多 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

六月日

一 奥島 浄土宗 浄土宗

光

一 浄土物 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

年二月廿六日

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

翫 石のれい じのめ 何事か
翫 じのめ 翫 じのめ

は卯恒との

右の頁の字に年 卯二月に百何部を後と度迄の法
案に當る所と案と云石のれい 経渡

一 茲利支丹之部

光

一 あり切支丹の部 在るに於ては何年
以前何方まで 金銀有るに何年以前に
於ての部と云めては 切利支丹を依預人仕
其科に如部免在不在の部 其の部 委細

書付の事

一 右のりい以前 切支丹の部 有るに於ては
其の部 又云何れと云ふ 職を仕るに於ては
方々 ありて あり 委細書付の事

一 家前切支丹の部 ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて ありて

一 あり切支丹の部 ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて ありて

卯六月

一 同政之沈文案

一切死丹室の従弟に無悔意を以て取次ぐ事

経由は所詮法書に依りておき私取者ありし事

と至寄書に家中よりありし追乞又金銀は所書

成る事ありし事

一 古切死丹指しと毎類族に追及る所は叙及

之の所ありし事

一 順申をとりて家中よりとりて又その事と云

は後小審如共於有とありし事

云々

年号月日

各官判書判

中山丹波と後

戸田又と事後

一 大事付所福案

云々

一 以目録あり付大いし事申し方面に屋敷を由りて

且一火の用心等申付自死何やしきとの思合

と云ふ事と意に拵りし事

一 西に屋敷の内へ入る事審如と云ふ大付との思

は拵り死方申し進つて居る事申す事致付大い

共と云ふ事と云ふ事申す事致付大い

申付事死方申す事

一 車長持向後所停止

附古文之席地事之法道是族の事や名濁い

一 大事之席之返いよの按所之法乃其為持の事

一 凡烈清阿ふの按在者を用いしをいり他行書

三月

一回

口上之文

一 在京大事出するの家来との取かゝる清い
大清流らむとたぬ事と門方の事の中は右所用の
法互不除阿ふ事其旨の事の事用い者合を
と以てては用事

一 今年志大之世書家来事はは 後有る数なる自
右に心付く事来除阿ふ事其旨の事用い者合を
と以てては用事

十月十八日

一 町中少筋事

是

一 宗礼法事承継く之執行の事と社山法法長物
衣物取来亦万端怪く之は

一 町人等之振舞之振置の事投打人向後刀さす

一 百姓町人衣被清油本綿麻布以等内無手限

妻子がよき事

一章 豫楽古田の仕度お勤めの方のめ苦
〜〜〜事

一章 悲しや女〜〜〜市中西の志事 右目〜〜
〜〜

三月二日

一章 遠江秋系系分所筋

是

一章 遠江秋系系分所筋と中〜〜〜村次道
渡末〜〜〜人多集地〜〜〜不慮仕方
付う 取〜〜仕電は 修り事

一章 國〜〜〜於て白後新紙〜〜〜用〜〜〜概子浦

有之志守社存行流〜〜お伺之事

一章 有来社事 多礼無悔意也前〜〜〜執行
〜〜

貞享二年七月九日

一章 町人夜敷御筋

是

夜敷〜〜〜先年云々 仕度〜〜〜日振〜〜法家
夜敷〜〜〜中おぼの就其改〜〜〜成自然お青
内定〜〜〜結核〜〜〜の有〜〜男女共、〜〜
〜〜意交の云々 仕度 乃振お心均先年云々

仕度 毎おおもつ

右〜〜通家持〜〜及〜〜借屋店借上は来〜〜何を

為常々急度おきさす中いかに油取在る旨愛望

辰二月六日

町年寄三人

私書但貞享四年

一町也元流中知来

是

一町也元流中知来の火を指方へ向き高貴
致ししもの見ありけりお政不之致す中い
但恒宅仕者貴致しし者不及改事

一町人兼妻子下女若に家前云仕初流法交之良
致を忌中しもの見ありし志改は町人妻子下女
之紡糸不之致重中事

一武士下女々々油は成る衣類と忌一通々
身中いり何方の者と取し致と志し見在法
不仕事

一武士の下女々々上の女浪人いり町元子存
町人の妻子身紡りお政浪人より又志あり
身公よおめりや中いり女之宿中事
不仕事

一趣ししお流何事流は成りとお育りの見事
いり是又改致重中事
元禄二年己未正月晦日

一夫女元流中
町内子存と志お政元流中事若他事

坊と廻成り方と尋し申す申す申す申す申す
尋し申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

卯二月

一月

坊におち申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

一而の御金に大毛付り申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
了る何方か申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
風中申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
思召候は申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
向後ハ申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

知事申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
い方と申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
よふは申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

卯二月

一馬

馬の御金に大毛付り申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
付り申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
坊におち申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
禁は申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

卯二月

一捨子

卯二月

一捨子有らん甲斐及所を市あていりて
小出いれ又古を去有らんて
摩ふ及事

一鳥新言新人の病け
アつお所いれ又古あかの
てて及所法方若言
事

九月十八日

一捨子并生るの沙弱

一捨子有らん甲斐及所を市あていりて
小出いれ又古を去有らんて
摩ふ及事

ゆき

一鳥新言新人の病け
アつお所いれ又古あかの
てて及所法方若言
事
一捨子有らん甲斐及所を市あていりて
小出いれ又古を去有らんて
摩ふ及事
一鳥新言新人の病け
アつお所いれ又古あかの
てて及所法方若言
事
一捨子有らん甲斐及所を市あていりて
小出いれ又古を去有らんて
摩ふ及事

貞享四年卯辰月日

一生新傳抄解

一 牛久保の義村 実宗の世に於て 任出如くは
或る寺屋村日吉代村に於て 病高松と云ふ
しむん 死品もて 任付之 吾先之度と云ふ
派犯^罪 任付 打向後 亦有之 急度曲りて
任付 御料 任付 任付 任付 任付 任付
任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付

貞享四年卯辰月日

一 捨子抄解

是

一 捨馬抄解 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付

一 有之 急度抄解 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付
任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付

十二月日 貞享四年

一 鳥之巢の抄解

是

一 在之 森林或海邊 並木或石段 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付
任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付

一 御年賣地或武士屋敷 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付 任付

宗とうあさやふゆはしては事

一 御東所寺社森井之書馬宗之けい及具令之
是又夕名之方より右へ殿中御宗とてせり
御東所有之寺社より右へ殿中御宗とてせり
あつたはしては事

右へ殿中 二歳之度より以後之れは事
古く殿中 二歳之度より以後之れは事
付の右殿中馬宗ありては事
子共右殿中馬宗ありては事
一 宗之介一切とてせり

一 貞享二戊辰二月廿二日
一生新撰之御宗

是

一 御東所 仁出之度より生新阿とては事
子下仁之度より 仁出之度より 仁出之度より
換り 御宗と人馬大志とては事
時中御宗とては事
遠い生新阿とては事
有るは事

一 御東所 仁出之度より 仁出之度より
人馬大志とては事
子下仁之度より 仁出之度より
時中御宗とては事
遠い生新阿とては事
有るは事

いふも七枝麻阿とは、時中口切と定法地より打
其より多枝麻阿は、其より其より其より其より其
枝麻阿は、其より其より其より其より其より其
子登り中付の若くは其より其より其より其より其
ゆより其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
地は、其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其

己六月

一 川松極厚の沙筋

是

西より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其

白雲寺十月

一 道中宿の昔の月

其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其
其より其より其より其より其より其より其より其

此台由定... 何處... 自京三年...

自京三年...

私云...

一 右和河内...

右和河内...

一 和名...

一月 平部郡

一月 葛下郡

一月 大津郡

一月 安富郡

内

右和河内...

...

一 和名...

...

一月

一月 平部郡

...

...

郡山

一月

一月 葛下郡

...

...

郡山

...

内

口方八子八百石七斗四升四合

河内

一 大塚郡

口方百三石四斗三升六合九勺七文

一 安宿郡

口方百十六石四斗三升七合

口方六子七百十九石三斗六升九勺七文

口方拾子方九子又百七十五石一斗八合九勺七文

一 森林之住之旨沙智尼

又

淀川右側川上之山ノ新田細保止

向後林ノ山ノ新田又ノ山ノ新田

此等ノ山ノ新田ノ新田ノ新田ノ新田

油野林ノ山ノ新田ノ山ノ新田ノ山ノ新田

子八月十三日

文政四年辛巳正月十四日家竟

岩波延延海屋志和書員直節彦權明

